



日本ジスク工業株式会社

もっと詳しく知りたい方は…

○産業情報支援センター

TEL0897-53-0010 FAX0897-53-0011

Eメール info@saijo-sics.co.jp

サイクスのホームページもご覧ください。

http://www.saijo-sics.co.jp/

産業情報支援センターの運営組織である(株)西条産業情報支援センター(愛称:サイクス)の各種情報をお知らせします。

今月は、先月に引き続き市内企業の所有する様々な技術を紹介する「我が社の得意技」についてお知らせします。



▲インタビューに答える寺田社長

日本ジスク社は、その前身の日本ディスク研究所時代より、一貫して砥石の加工、製造を行ってきた企業だ。歯科用砥石の製造の他に、真珠の

加工など、さまざまな加工を行っている。また、材料に乏しい戦後間もない頃、先代の社長が付加価値の高い商品を生み出そうとして考案したものだ。

「得意技は切断砥石の加工」出発点は、歯と歯の間を広げるための歯科用砥石だった」と日本ジスク工業(株) (以下、「日本ジスク社」) 寺田了三社長は語る。この歯科用砥石は、現在の歯科技術ではあまり必要とされなくなっ

たものではあるが、材料に乏しい戦後間もない頃、先代の社長が付加価値の高い商品を生み出そうとして考案したものだ。

我が社の得意技②  
砥石で日本の優れた技術を支える  
日本ジスク工業株式会社 (福武甲)

国内シェアの約60%が日本ジスク社製

「ニッチ(隙間)産業のため、市場規模は非常に限られている」と寺田社長は語るが、現在のところ、高い製造技術を誇る日本の注射針の製造量は世界一である。その注射針を加工するための工業用砥石国内シェアの実に約60%が日本ジスク社製である。また、糖尿病患者の増加によりインスリン注射針への需要が世界的に高まる中、日本ジスク社では、自社で製造する切断用砥石の約3割程度を、韓国や中国、インド、イギリス、フランスなど、海外向けに輸出を行っているっており、海外製品と比較して、品質面での優位性を保

核を切断する砥石の製造なども行った時期があったが、現在では、二次感染を防止するために使い捨てが主流となった注射針(ステンレス)加工を中心とする工業用切断砥石の製造が中心となっている。

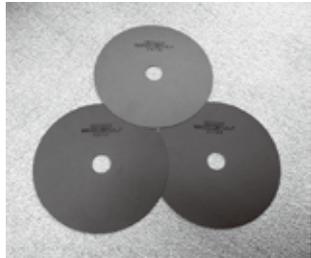
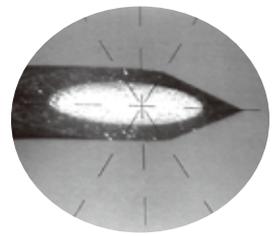
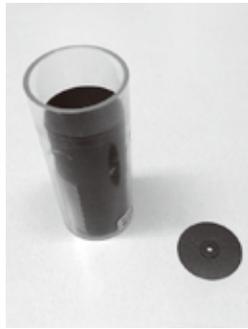
一般的な注射針の製造は、長く引き延ばした細いパイプ状のステンレスを針の長さにより切断し、側面等を削ることに似て見える注射針ではあるが、メーカーによって針の素材は異なる。日本ジスク社では、納入先によって切断用砥石の性質を変化させている。

その他、日本ジスク社は、金属の中で最も硬いとされるタンゲステン加工する砥石なども製造している。

「地方の会社でもやればできる!」

「地方の会社でも世界に認められている訳だから誇りを持ちなさい」と社員に話す寺田社長。工業用砥石は薄ければ薄いほど切削抵抗が少なくて切れ易く、製造に必要な材料も少なくなり省エネにも繋がる。日本ジスク社では、いい品質の商品を提供することを目標に、最も薄いもので0.3ミリメートルの工業用砥石を製造することができる。「難削材が増えているから、切れるものは何でも切ってしまうと思う」と寺田社長の地域でのチャレンジは世界へと繋がっている。

日本の高い工業技術を支える  
日本ジスク工業の砥石製品



(写真右上) 砥石で磨かれた注射針先端の拡大写真  
(写真左上) 出発点となった歯科用砥石  
(写真左下) 製造している各種の砥石

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

「地方の会社でも世界に認められている!」

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)